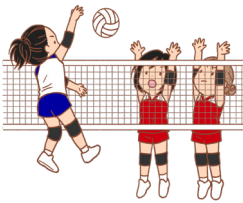




## 中学校部活動の地域展開

### 子どもたちを育む地域クラブの挑戦



この4月から、筑西市の中学校では部活動の地域展開が始まり、学校部活動は平日のみ、休日は地域クラブなどでの活動へと転換していくと知り、どのように変わったのか興味を持ちました。

そこで今回は、すでに地域クラブとして活動しているMSGバレーボールクラブ（以下「MSG」）会長の鈴木瑞穂（すずきみずほ）さんに、お話を伺いました。

### 地域クラブ設立のきっかけ

MSGは、鈴木さんが所属していた社会人チームから派生した小中学生対象のクラブチームです。中でも女子中学生のチームは、令和6年か



おしま まさみ 小島 正美 さん（柳）

中学校部活動の地域展開が、中学生ファーストで進むよう見守りたいです。



MSGバレーボールクラブ会長 鈴木さん

ら茨城県中学校体育連盟に登録し、大会に出場しています。今年度は、筑西市と桜川市の中学生15人が所属し、平日夜3回と週末に活動しています。

「子どもが中学生になる時期に、部活動の地域展開の話があり、子どもたちの活動場所が無くなることに危機感を持ったことが、地域クラブ立ち上げのきっかけでした。当時、関係機関に話を聞きに行つて情報収集しましたが、制度自体が新しいため情報が少なく、どう行動すればいいのか悩みました。その中で、子どもたちのことを最優先に考え、とにかく受け入れを始めようと行動しました。手探り状態ではありましたが、

### 部活動の地域展開について

子どもたちが生涯にわたってスポーツ・文化芸術活動に親しむことができるよう、学校部活動から地域クラブ活動などへ転換するもの。



スポーツ少年団や社会人チームなどの経験を活かして、なんとか進めてこられたというのが実感です」と鈴木さんは当時は振り返りました。

### 地域クラブだからこそその活動内容と課題

MSGでは、子どもたちが中心となって個人やチームの目標設定や振り返りを行うなど、主体性を育てることも重視しているといえます。また、子どもたちの健やかな成長のために食育やメンタル、フィジカルトレーニングにも力を入れていくと聞き、競技経験や有資格指導者がいる地域クラブだからこそ挑戦できることだと感じました。

一方で、課題も見えてきているように「現在、有資格指導者は4人いますが、仕事の予定を調整して参加しているのが実情です。仕事と両立して指導や運営に協力してもらえない人材は少ないと思います。安定して

### 取材を終えて

活動を継続するためには、人材を確保しやすくする仕組みが重要だと感じます」と今後の活動に向けて想いを巡らせました。

市文化スポーツ課によると、中学生の受け入れ団体として、今年度は約60団体の登録があるそうです。多くは保護者主体の団体で、他に地域の文化芸術団体や民間の団体もあるそうです。部活動の地域展開は県西地区では筑西市が先行してスタートしており、今後さまざまな課題が出てくることと思います。保護者主体の団体では3年生引退に伴い、年度途中で責任者の引き継ぎが必要になるケースが出てくることも考えられます。課題を共有する場を設け、中学生にとって良い形で地域クラブが運営されることを期待したいです。

【問】市文化スポーツ課

☎ 22・0183



①練習の様子 ②メンタルトレーニングの様子